

● 7月16日(水) 快晴 緑岳から小泉岳を通過して白雲岳(2229.5m)へ

○夜中にトイレへ行ったら満月がきれに夜空を照らしていた。間違いなく天気が良いぞ！

・3時半から目が覚めて4時に起床。テントの青年2人も起きてきて「オハヨーオ」。朝食を摂りながら彼らといろいろ話をし「カートを引き歩いて歩いているのじゃ野菜をあまり食べていないだろう」と野菜ジュースを4個差し入れてやったら大喜びで飲んでた。

・5時半に出発。青年2人と一期一会の記念撮影をし、彼らはカートを引きいて三国峠方面へ歩いて行った。糠平まで行くというが、ちょっと遠いので「途中で除雪センターがあるからそこで泊まれるよ」と教えてあげた。私は大雪高原温泉へ向けてダートの道に車を走らせた。



カートを引き歩いて行った

・大雪高原は無風快晴！身支度を整えて5時55分に出発。入山届けでは私は2人目だ。いつもの通り歩きだしの調子は良くない。心臓ドキドキ呼吸ハアハアで急坂をゆっくりと登る。約1時間登って第一お花畑に到着。パッと展望が開け真っ青な青空の下に緑岳が迫って見える。お花畑はまだ雪渓の下だが雪が溶けた周りにはエゾコザクラがいっぱい咲いている。白い雪、ピンクのコザクラ、緑の山、青い空とすばらしい展望に疲れも吹っ飛び、足取りも軽い。第二お花畑も第一お花畑と同じような状態で雪が残りエゾコザクラがいっぱい咲いていた。



・雪渓を何回か横切りハイマツ帯を抜けると、緑岳最後の詰め、標高差300mの岩場に突き当たる。急坂の岩場をひたすら登り徐々に高度があがると展望が開け、特徴のある王冠のトムラウシ山が南方遠くに見えてきた。



雪渓を何回か横切る



トムラウシ山 ↓ が頭を出した

・岩場の急坂を登りきるとそこが緑岳山頂（2019.5m）だ。無風快晴、360 度の大自然が開けている。すぐ目の前に白雲岳、その左奥に旭岳が。さらに左に目を転じれば大雪山のなだらかな山並みがずっと南へ続き、一番奥にトムラウシ山が王冠の山容を誇示している。まだ朝9時前で誰もいない。絶景を一人占めだ！



・さてこれからどうしようか？ 天気は良いしまだ9時前だし体調も絶好調だし、とにかく小泉岳まで行ってみようと歩きだした。

・これが大正解だった！ 道の両側に花がいっぱいだ。エソツツジが最盛期で一面に赤い花を咲かせていて赤い絨毯を敷いた様だ。そのほかキバナシオガマ、リシリリンドウ、チシマキンレイカ、ヒメイワタデなど珍しい花が咲き競っている。ホソバウルップソウは一面にあるが、もう花の時期が終ってしまいほとんどの花が茶色に枯れていた。



・なんといっても圧巻はチョウノスケソウがまだ咲き終わらずに沢山の花を咲かせていたことだった。もう時期が遅いだろうとなかばあきらめていたチョウノスケソウが群生して咲いており、我を忘れて写真を撮りまくった。そばにはコマクサやイワインチンなども咲いていて、振り返れば大雪の高原の向こうにトムラウシ山が常に眺められてなんと楽しい登山道だろうか！ 今日ここを選んだのは大正解だった。



・小泉岳に着いたのが 10 時過ぎ。コースタイムガイドによると白雲岳まで 1 時間くらいで行ける。天気は良いし、体調も良いし「よし、白雲岳まで行こう！」と即決し、白雲岳を目指した。



・この決断がまたもや大当たり！ 白雲岳に 11 時前に着くことができた。それに山頂へ登る途中のお花畑のすばらしいこと。サクラソウ、チングルマ、ツガザクラ等々の花が青空に映えて咲き乱れ実に綺麗だ！山頂からの眺望がまた素晴らしく、360度遮るものがない。延々と続く大雪山脈の先にトムラウシ山が聳え、その奥に十勝連峰が連なって見える。目を転じれば旭岳、北海岳、北鎮岳など大雪の山々が取り囲んで聳えている。

山頂は大勢の人で賑わっていた。



・山頂からの絶景を楽しみながらおにぎりや弁当で昼食を済ませ、15分くらい滞在してすぐ下山した。小泉岳から緑岳への尾根道は先ほど登ったばかりだが、エゾツツジが一面に咲く赤い絨毯の上にホソバナノウルップソウやコマクサやチョウノスケソウが散在して咲く実に楽しい道。今日は2度も楽しんだ。

・緑岳に 12 時半に到着した。名残惜しい大雪の展望を十分に目に焼き付けてから大雪高原へ向けて下りにかかった。このコースを下るパーティーは私を入れて6人。男性が3人と、老夫婦の1組。みんな先に下って行ったが、私の下りは早い。みなさんを途中で「お先に！」と抜いてどんどん下り、14時半に大雪高原に着いた。緑岳からの岩番の下りで、トムラウシ山の王冠が徐々に山陰に消えて行くのが寂しかった。



・晴天とすばらしい眺望と色とりどりの花々に恵まれて、文句をつけようがないすばらしい一日だった。

これで今年の北海道山紀行が終了し、最後に最高の贈り物をいただいたような気分だ。

・大雪高原からダートの林道を約 10km 下って大雪防災ステーションに戻り、水道をお借りして身体の汗と車の砂埃を洗い流してから、私の北海道の基地の一つの当麻ヘルシーシャトーへ向かい車を走らせた。温泉でゆっくりと疲れを癒し、さんまの蒲焼をつまみにビール、酒で今年の山紀行の終わりを祝った。

・今この駐車場には、長崎ナンバーの車、横浜の一人旅のおじさん、それに岡山ナンバーの屋台ラーメンの車が止まっている。屋台ラーメンのおじさんは「洗車したら私の車に水をかけてしまい申し訳ない」と云ってお茶のボトルを 1 本持ってきた。律義な人だ。

このような駐車場でラーメン屋台をやりながら北海道の各地を回っているという。港で店を開くとすぐに客が集まるが、ここ当麻の様な内陸で店を開いても内陸の人はシャイですぐには客が集まらなると、面白い話をしてくれた。



当麻のいつもの駐車場



屋台ラーメンの車

・酒の酔いも回ったし日が暮れたので、今日の楽しかった一日を思い出しながら眠りについた。